向島の催し、ニュースは愛隣館研修センターへお知らせ下さい。

向島・愛隣館研修センターニュース

社会福祉法人 イエス団
愛隣館研修センター
〒612 京都市伏見区向島二の丸町151
TEL（075）621－3849
発行　平田　義
編集　馬場園　慎一

はじめまして センターニュース創刊

愛隣館研修センターの新聞が六年目にして、ついにできあがりました。今まで多くの人々のご支援により育まれてまいりましたことを感謝いたします。今後とも、いろいろな人々の交じわりと集いの場として共に歩んで行ければと願っております。なお、この新聞の名前を公募いたします。どしどしお寄せ下さい。

（愛隣館研修センター主事・平田義）

様々な団体、個人の方々にご利用いただいている当センターですが、それぞれの活動の内容が他の団体、個人や地域の人々に知らされていないのが現状です。今後、この新聞も、お互いの様々な情報を交換し合う場としてご利用していただければ幸いと考えております。

さて、当愛隣館研修センターが建設されるに至った経過について、若干ご説明申し上げますと、一九七七年三月の社会福祉法人イエス団理事会において、空の鳥幼児園の二階部分に、いろんな人が共に集える場として、研修センターの建設が決議されました。その後、一九七九年六月に当愛隣館研修センターが竣工されました。当初、地域福祉の経験を持ち、桃陵保育園で働いておられた永田昇二氏がこのセンターの仕事に専任として着かれました。

永田氏は、まず、地域文庫活動を手懸け、当時のニュータウン内の全戸に、文庫の案内を配り歩くことから始められ、それが、現在の向島ふうせん文庫の基礎をなしているといえるでしょう。その後、地域のボランティアのお母さん方に支えられて、ふうせん文庫は現在に至っております。

その当初からなされていた事業の一つとして、土曜学校があります。初め、故荒木崇牧師が、太鼓を打ち鳴らしながら、路傍伝道を向島ニュータウンの中で続けておられました。その後、当センターが建設され、所をセンターに移し、教会学校の業（わざ）として、世光教会や西小倉めぐみ教会の信徒らによって支えられてきました。現在では、週に月曜、土曜、日曜の三回を教会学校の業に、活用しております。

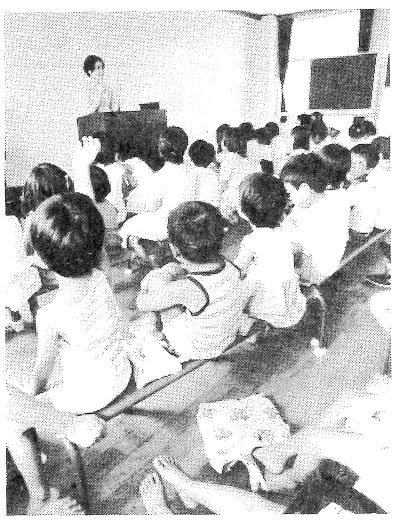
永田氏は、五年の間、ボランティア講座を開いたり、地域の障害児とボランティアとの交流を深めたり、生協活動、親と子との劇場、バレエ教室などとの貸室の関係をも推進したりいたしました。また、自らも京都ボランティア協会の南支部のスタッフとして重要な役割りを果たしてこられました。

その永田氏が、昨年、突然辞職されることとなり、平田が専従としてこのセンターの専任となりました。

そこで、今まで以上に運営面でのバックアップが必要になり、運営委員会を組織し、運営にあたることになりました。野百合幼児園園長で愛隣館研修センター館館長の難波俊子氏、世光保育園園長で世光教会牧師の後宮俊夫氏、桃陵保育園園長で八幡ぶどうの木教会牧師の木村量好氏と平田の四名にて、月一度の運営委員会にて、センターの活動方針、内容などについて検討を重ねている次第であります。

今後、皆様方のご支援、ご協力、ご意見などによって、益々、地域に開かれたセンターになれるように、また向島地域、南山城地域の人々が、共に集い交じわれる場となれるように考えて一歩一歩あゆんで行こうと思っております。どうぞ、率直なご意見、ご批判をお待ちしております。みんなで、この地域、社会、人間のことについて考えていきたいと願っております。

新聞の名前を募集します



土曜日は土曜学校へ

地域に開かれた図書館を

向島図書館を育てる会結成

京都市中央図書館長に要望書出す

向島図書館を育てる会（事務局・愛隣館研修センター）が六月でき、向島ニュータウン内に、来年春開館予定の市立図書館（仮称・向島図書館）が地域に開かれたものになるようにと、京都市中央図書館長に住民の要望書を出した。中央図書館では、「図書館はまだ計画段階なので、個々の要望には具体的に答えられない。今後検討したい」とした。同会では、引き続き中央図書館側と話し合ってゆくことにしている。

子供たちでいっぱいのふうせん文庫

要望書を出したのは六月十八日で、七月九日初めての話し合いをした。

要望書は計二ページで、①ニュータウンがベッドタウンであることから開館時間を午後八時半まで延長すること②タウン内には障害者用住宅もあり、障害者や在宅老人などへのサービスを充実③旧向島地区の住民のために、移動文庫（自動車文庫）を――など九項目を挙げている。

中央図書館ではこれに対し九月末までに、①開館時間の延長は人件費の問題や他の図書館との兼ね合いもあり、難しい②京都市では現在、図書館の建設そのものに力を入れており、内部の施設やサービスの充実はその後取り組んで行きたい③旧向島地区への移動図書館は今のところ計画していない――などと、答えた。

向島図書館は向島二の丸町の中央公園北に、京都市住宅供給公社が七月から建設している向島ニュータウン住区センター（鉄筋二階建て）の一階を京都市が借り、開かれる予定だ。

京都市では、図書館整備事業として一行政区一館の図書館建設を進めてきた。今年度で事業は一応終わり、向島図書館は京都市では十番目、伏見区では二番目の市立地域図書館になる。

向島地区には約三万五千人が住むが、公共の文化、教養施設はない。

伏見区内には石田団地内に市立醍醐図書館があるが、向島からは電車やバスを乗り継がねばならず、利用しにくい。

このため、公共の文化施設の一つとして図書館の建設を求める声が強かった。

向島図書館を育てる会は誰もが、いつでも気軽に使える地域の図書館を育てて行こうと、ニュータウン内の主婦が中心になり作った。

向島図書館ができることを聞き、「ふうせん文庫はどうなるの」と、心配する声も少なくなかった。

同文庫は一九七四年、ニュータウン内の主婦が中心になり作った。向島では唯一の地域文庫で、地域の子供たちを中心に、本の楽しさを伝えてきた。

現在、約五千冊の本を持っている。毎週金曜午後二時半から五時までの二時間半、愛隣館研修センターホールで開かれている。

こんな図書館を！

向島ふうせん文庫作成

	予定	こうして欲しい
開館時間	9・30～16・30	20・30ごろまで延長して。サラリーマンや中、高生にも使えるように。
談話室や集会室	なし	ぜひ設置を。図書館は地域の人々の交流の場でもあるはず。
在宅老人や障害者、病人へのサービス	車いす用のスロープとトイレのみ	配本サービスや対面朗読室を。体の不自由な人にも、利用しやすく。
机、いす職員	？	十分な数を。手話ができる人、児童書についての知識が豊かな人を。

ふうせん文庫はこれまで通り開かれます

向島ふうせん文庫は九月までの定例会で、向島図書館ができてもこれまで同様文庫活動を続けていくことや、本を貸し出すだけでなく、読み聞かせ、紙芝居、各種行事などの回数を増やし、図書館とは違った方法で地域とのコミュニケーションをより強めて行くことなどを確認した。具体的な内容は、今後の定例会などで話し合われる。

「ボランティア手がかり講座」のお知らせ

来年一月二十二日より二月二十六日までの、毎週水曜日の午前中に、「ボランティア手がかり講座」を開催する予定です。初心者向けのボランティアに関する初歩的な講座です。詳しくお知りになりたい方は、愛隣館研修センター621－3849（平田）まで。

第二回運営委員会開かれる

今年度二回目の愛隣館研修センター運営委員会が七月四日、同センターであった。四、五、六月の活動と会計が報告された後、機関誌発行や身体障害者のためのエレベーター設置、今後の行事計画などが話し合われた。

平田主事結婚

平田義愛隣館研修センター主事と兵庫県西宮市、学生、川守田恵さんの結婚式は九月八日、伏見区桃山町の日本キリスト教団世光教会であった。両家の親族や友人、約三百人が出席した。

平田主事は大阪府出身で、同志社大学を一九八四年春卒業後、同センターに勤めている。

馬場園君手伝う

同志社大学一年の馬場園慎一さんが五月から週二回、愛隣館研修センターの仕事を手伝っている。機関誌の編集や事務所の掃除などを主に担当している。

馬場園さんは鹿児島県出身で現在、上京区の同大学学生寮に住んでいる。

向島差別と人権を考える会結成

「在日韓国・朝鮮人」をテーマに

初の映画会と学習会

向島差別と人権を考える会（事務局・愛隣館研修センター）が七月でき、初めての映画会と学習会を同センターで開いた。「在日韓国・朝鮮人の人権」が今回のテーマで、地域の主婦や学生など延べ約二百人が参加した。同会では今後心身障害者問題にも取り組んで行くことにしている。十月十九日午後七時半からは、センターで、「障害児を普通校へ」をテーマに講演会を開く。

外国人の指紋押捺（おうなつ）制度見直しの声が高まっている中、在日外国人、とりわけその大部分を占める在日韓国・朝鮮人の人権問題を考えるために開かれた。

会発足に先立ち六月一日あった映画会では、「指紋押捺拒否―外国人登録法改正に向けて―」が上映された。

学習会は六月十五日と七月六、三十日、九月二十一日の四回に分けてあった。

第一回は「外国人登録法とは何か―在日韓国・朝鮮人の歴史と現実（戦前編）―」、第二回は「同（戦後編）」と題した講演、三回目は質問や討論があった。第四回は外登法問題と取り組む京滋キリスト者連絡協議会（京滋外キ連）事務局、宇野豊さんが、「在日韓国・朝鮮人の人権―日本人の立場から―」と題して講演した。

学習会と合わせ七月二十一日あった同会発足式では、①伏見区内の指紋押捺拒否者数や予定者数を調べる②押捺拒否者の告発をしないようにと、伏見区長に要望書を出す③韓国・朝鮮をより身近に知ってもらうため、センターでハングル語講座を開く④定期的に事務局会や全体会を開く―ことなどが決められた。

向島には在日韓国・朝鮮人や心身に障害のある人たちが少なくない。これらの人々の人権を考え、差別のないより

考える会発足式（7月21日）

よい地域社会を作って行こうと、同会は地域の人権問題に関心を持つ人たちが設けた。

被爆四十周年

原爆絵画展開かれる

「ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」（主催・京都YWCA、愛隣館研修センター）が七月三十、三十一日の両日、同センターで開かれた。夏休み中とあり、たくさんの子供たちが訪れた。

約三十枚が展示された他、スライド「広島を見た人」（丸木美術館制作）や紙芝居の上映や上演があった。

広島、長崎両市に原爆が落とされてから今年で四十周年になる。原爆の恐ろしさと生命の尊さを、地域の人たちにより知ってもらおうと、開かれた。

一九七四年から広島市を中心に、市民の手で原爆の記録を残そうという運動が始まった。これまでに二千点以上の原爆の絵が市民から寄せられ、財団法人広島文化センターに保存されている。

今回は、その一部を展示した。

JOCS

映画会開かれる

ネパールで働く日本人保健婦、前田迪代（みちよ）さんが撮った写真を集めたスライド、「高い峰のふもとで―新しい村づくりに向って―」の上映会（日本キリスト教海外医療協力会関西JOCS主催）が七月三日、愛隣館研修センターであった。主婦ら約十人が訪れた。

スライドはネパールの伝染病や感染症、乳幼児の死亡率の高さなどを示し、援助の手をと訴えた。

JOCSは一九六〇年、結核で苦しんでいるネパールの子供たちにBCGを贈ろうと、作られた。使用済み切手を集め、現金に換えて買った医薬品や医療器具をアジアの開発途上国に贈ってきた他、医師や看護婦、栄養士などを同時に派遣してきた。

前田さんは一九七八年、ネパールに渡った。現在は保健ボランティアの人や産婆の育成のコンサルタントなどを主な仕事としている。

機関誌編集で忙しいセンターの事務室

言いたくない　聞きたくない

軟らかく、きめ細かに

紙面を開けて待っています

B4、二ページ、季刊、千部。

「いつできるの」「まだなの」……

こんな小さな新聞でも、心待ちにしてくれる人がいた。恥ずかしくもなく、つたない新聞を出すことになったのも、そんな人たちがいたからこそだ。

「どんな新聞になるの」と、何人かの人に聞かれた。

「読者参加、住民参加の新聞を作りたい」と、答えてきた。

愛隣館関係の記事は、多くはいらない。編集人が書く記事もできるだけ少なくしよう。向島の人たちが書いたものを、その分多く載せて行きたい。

地域の人たちが、情報の受け手ではなく、送り手になって欲しい。向島の抱えるいろんな問題を、紙面を通じて話し合ってもらいたいからだ。応援して下さい。

創刊前の編集会議で、全国のさまざまな団体の機関誌（紙）を集め、紙面を検討してみた。

全体的に感じたのは、硬さだ。読んでいて、肩が凝った。紙面に余裕がない。ユーモアが感じられない。

粗さも目立つ。だらだらした長い原稿が多い。読んでもらおうという気持ちが感じられない、ただ並べただけの紙面割りも目に着いた。

センターニュースは、いわゆる機関誌らしい機関誌にはしたくない。

子供が見ても楽しめるような軟らかい紙面、地域のいろんな情報であふれんばかりのきめ細かい紙面にしたい。

御意見、批判を待っています。

投書も寄せて下さい。詩、短歌、俳句、漫画、コラム、センターへの批判などなんでも結構です。紙面を開けて、お待ちしています。

このコラムには、ずばり本音を書いてもらいます。建前ばかりの紙面では、新聞が死んでしまいます。

時には、言いたくないこともあるでしょう。でも、それを書いて欲しいのです。聞きたくないこともあるでしょう。けれど、耳をふさがないでもらいたいのです。

ちょっといい本

私がたくさんの美しい絵本に出会い、親しんだのは、自分の子供が生まれてからでした。

文庫のお手伝いをする機会に恵まれ、幼いころからその時々の年齢に合った絵本を読み聞かせることができたのは、子供にとっても、大変幸せなことでした。

その中で、何冊かの絵本を御紹介したいと思います。

（野ネズミの）「ぐりとぐら」は、森でみつけた大きな卵からおいしいカステラを作ります。お料理をすることと、食べることの大好きなぐりとぐらの焼いたカステラ！　なんていい香りがするのでしょう。子供たちは集まって来た森中の動物たちと一緒に、カステラを囲む幸せな気分になるのです。

「はじめてのおつかい」は、赤ちゃんが生まれたので、初めて一人で牛乳を買いに行く女の子のお話。林明子さんの絵は、見ている子供もみいちゃんになって試み、不安、そして勇気、できた！という自信と満足を感じさせてくれるのです。

生活を大切にしたいと思います。そして、これからも絵本の中の想像の世界で、思いきり遊び回りたいと思います。

（ぬ）

「ぐりとぐら」

「はじめてのおつかい」

×　×　×

「ぐりとぐら」（作・中川李枝子、絵・山脇百合子、福音館書店）、「はじめてのおつかい」（作・筒井頼子、絵・林明子、同書店）は二冊共、向島ふうせん文庫にあります。

月間報告

4 5 6 7 8 9

◎非核バザー（4月6、センター・7日、六街区集会室）

◎手作りの手工芸品やクッキー、日用雑貨品などを、主婦が販売した。収益金で非核、平和を訴える本を買い、地域の小・中学校や文庫に贈る予定にしている。

◎図書館について考える会（4月23、24日、5月20日、センター）　向島図書館を育てる会が映画「図書館と子供たち」の上映会や学習会をした。

◎向島差別と人権を考える会学習会（6月1、15日、7月6、20日、9月21日、センター）

◎関西JOCSスライド上映会（7月3日、センター）

◎夏休み映画会「パパ・ママ・バイバイ」（7月27日、センターと10街区集会所）　京都生協伏見支部二ノ丸・藤ノ木運営委員会が主催した。約二百人の子供たちが訪れた。

◎「ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」（7月30、31日、センター）

◎向島民主商工会映画会とバザー（8月3日、センター）

◎アニメーション映画などの上映があった。

お知らせ

◇京都きょうだい会合同バザー◇　十月二十七日（日）、午後零時から四時までの四時間、愛隣館研修センターで。ミニコンサートや模擬店、古本市、無農薬野菜の販売、共同作業所製品の販売、喫茶など。京都「障害者」をもつ兄弟姉妹の会主催。

H・ウィルキー博士講演会

―障害者と共に歩む
地域社会を目指して―

とき　10月27日（日）
午後2時～3時半

ところ　野百合幼児園
ホール

主催・愛隣館
研修センター

ハングル語講座生徒募集

愛隣館研修センターで、近日開講予定です。
初級、会話中心。
詳しくは、センターへ。

塾生募集

小・中学生

▶小・中学生若干名
▶英・数・国　週二回
▶一クラス五名以内の小人数型式

愛隣館研修センター

向島差別と人権を考える会連続講座⑤

「障害児を普通学級へ」

10月19日午後7時半
愛隣館研修センター